

表紙解説

「大石兵六物語」 一卷 写本 享和元年（一八〇一）

寛永元年（一六二四）頃の鹿児島を舞台に、人を化かす狐に勇敢に立ち向かう若侍、大石兵六の物語。狐たちは兵六を脅すためにさまざまな妖怪に化けているがその姿がダイナミックに描かれている。驚いた兵六はそのたびに逃げまどい、結局坊主にされてしまう。この絵巻の伝本は当館の他に国立歴史民俗博物館所蔵本等数本しか知られていない。図は「とつくはう」というミニミズクの妖怪。（八一三―一三四五）